

平成27年度第1回 京都市民健康づくり推進会議食育推進部会 摘録

1 日時 平成27年9月4日（金）午後3時～4時30分

2 場所 職員会館かもがわ 2階 大会議室

3 議事

- (1) 次期食育推進プランの策定にむけて
- (2) 現プランにおける取組の状況
 - 現プランにおける数値目標の達成状況
 - 新「京（みやこ）・食育推進プラン」の重点課題に基づく取組
- (3) 「平成27年度食育に関する意識調査」の主な結果
- (4) 次期食育推進プランについて

事務局（志摩課長）	～開会～
事務局（松田室長）	～挨拶～
事務局（志摩課長）	～出席者紹介は出席者名簿参照～
座長（小川部会長）	これから議事に入らせていただく。まず、【議事1】「次期食育推進プランの策定に向けて」を事務局から説明をお願いします。
事務局（志摩課長）	～資料1「京都市民健康づくり推進会議」開催要綱～ →食育推進部会は、当要綱の第6条に位置付けられる部会である。条例に基づく審議会のような形式であれば、意見を一つに集約していくが、当部会は、各専門のお立場から幅広く御意見をお聞きする場とさせていただいているため、忌憚のない御意見をいただきたい。
座長（小川部会長）	～資料4「次期食育推進プランの策定に向けて」～
事務局（志摩課長）	引き続き【議事2】「現プランにおける取組の状況」【議事3】「平成27年度食育に関する意識調査」の主な結果について事務局から説明をお願いします。
事務局（志摩課長）	～資料5「現プランにおける数値目標の達成状況」の説明 ～資料6「新「京（みやこ）・食育推進プラン」に重点課題に基づく取組」の説明 ～資料7・資料8「平成27年度食育に関する意識調査」の主な結果の説明
座長（小川部会長）	今の事務局の説明について御質問、御意見を頂きたい。
京都市食品衛生協会（池本副会長）	（意識調査のおぼんざいの設問について）8つのおぼんざいの中に、魚は、生節しか入っていない。中央卸売市場への生節の入荷量は少ない。現在、魚は幅広く入荷をしている。野菜ももちろん大事だが、設問の中に魚をもっと入れていただきたい。 資料6にあるとおり、第一市場は、非常に食育に力を入れており、小学校への出前板さん等にも取り組んでいる。データを取るのであれば、我々の取り組みの状況も踏まえて設問を設定してほしい。
座長（小川部会長）	貴重な御意見ありがとうございます。様々な食育活動の効果は、他の意識の設問の部分でもはかれるのではないかと。

<p>京都市食品衛生協会（池本副会長） 京都女子大学 （中山教授）</p>	<p>7万食提供している学校給食では、和食の取組が進んでいる。子どもたちは、喜んで食べてくれている。分け隔てなくデータを取ってほしい。</p> <p>今回の調査では、現プランの評価と次期プランに向けた検討が必要であり、質問項目も多岐にわたることから、おぼんざいについても8つに絞らせていただいた。質問肢については、食育推進部会の皆様にも確認した。魚食の普及については、第一市場の方々を中心となってお尽力されていることは確かであり、様々な部分で効果が出ていると思う。</p>
<p>事務局（志摩課長）</p>	<p>御指摘の点は、次のプランにそのような観点を盛り込むべきという御意見と捉えさせていただきます、検討させていただきます。</p>
<p>京都市小学校長会 （木原校長）</p>	<p>現在は、和食の推進、中央卸売市場の取組等にたくさんの学校が参加し、子どもたちへ食育が啓発されている。子どもを通した保護者の意識が、この調査に反映されていると思う。一番小さい年代の調査が、3歳児の保護者であり、その意識が、その次の世代の小学校5年生、中学2年生に反映されていると考え、今回少し結果が低下している部分については、もしかすると子どもたちの問題というよりも親の意識、市民の意識の低下の問題かもしれない。食育の取組は、ここ10年の中で充実して展開されているので、それらを次のプランにどのように反映していくかを議論する時であると思う。また、取組がなされても、次の世代になると課題の方が大きく見えてくるということがある。ゆとり教育のように、その時にはきっとタイムリーな取組であり、先を見通したものであったとしても、時代の流れとの関係の中で変化するものがある。</p> <p>さきほど御意見があった魚について、今の子どもは魚が大好きであるが、魚は集団の調理は難しい。崩れるリスクがある。一人1匹提供する時、調理員は大変苦勞しており、蒸したり、スチームコンベクションを導入する等の工夫をしているので、子どもたちの魚への意識ももっと変わってくると思うので、次期プランに向けて検討に入れていただきたい。</p>
<p>京都市食品衛生協会（池本副会長） 体育健康教育室 （俣野給食課長）</p>	<p>給食の入札は、5か月前なので、どうしても魚は冷凍になる。</p> <p>給食献立は半年前から原案を作って、食材の調達は2か月前のスパンで動いている。家庭と違い集団調理であるため、安全性を絶対視し、調達から調理まで時間の制約がある。そのため、魚については冷凍を使わざるをえない。子どもたちへは、和食に親しむ取組など食育の取組を強化している。</p> <p>従来の釜だけの調理だけでなく、試行的だがスチコンを入れて少しでも献立の幅を広げることも進めている。今後も市場の方からの食材の協力をお願いしたい。</p>
<p>全日本司厨士協会京都府本部（安田副会長）</p>	<p>司厨士協会では、中学校の授業で食育活動を行っている。その際、朝から食事を摂ることは勧めている。食べることによって脳を活性化し、学ぶ力をしっかりとつけてくださいと伝え、子どもたちと調理実習をしている。中学生の朝食喫食率のポイントが少し上がっていたことにつながったかどうかは分からないが、やっているということは事実なので、多少なりとも影響が出てきたのではないかと思う。7年前から取り組みは継続している。食の安全安心、食材、調理法について伝えている。調理法によっていかに栄養を崩さないようにしたり、その食材から出た汁、あるいは美味しさをソースにして残して食べるかということをお伝えしている。</p> <p>食育指導員の養成についても日本料理アカデミーさんと一緒に取り組んでいるが、その</p>

<p>食育指導員（松田氏）</p>	<p>講義の中でもこれらのことを伝え続けていきたい。</p> <p>意識調査の結果や、私が小学校で関わっている活動を踏まえて色々考えるとところがあった。3歳児は、幼稚園・保育園で食育が割と浸透しており、また、小・中学生は、給食の取組や料理人の方の講義等食育が浸透している。しかし、20歳代の大学生で一人暮らしを始める時期が、支援・指導が届きにくい時期であるとの結果を見て思った。その時期に朝ごはんを食べなくなり、多量の飲酒や、カロリーの高いものを食べてメタボリックになるような悪い習慣がついていく。保健センターでも、これらの年代に向けた取組は少なく、募集をしても忙しくて参加できない年代なので、その年代に向けた取組がもう少しあったらよい。</p> <p>例えば、大学生に向けて献血の時に数値が悪い人に食育の指導をする等、一番支援が弱い年代に向けての取組を全市あげて実施できないか。次のプランに向けて検討していただきたい。</p>
<p>京都府栄養士会 （岸部会長）</p>	<p>子どもたちの朝食の喫食率が上がっていることはとても良いことだが、親や周辺の人達がフォローをして食べているのであって、自分自身が食べないといけないう意識はないため、20歳くらいの自立する時に自分では作ることができず、食べなくなるのではないか。自分の朝食は、自分で用意すると子どもたちに教育するくらいの方向性も一つの考え方ではないか。また、調査の中で『旬のもの』という言葉が出てこない。魚や野菜、果物には旬があるので、旬を考えながら食生活を送るということを次のプランの中に入れてはどうか。</p>
<p>座長（小川部会長）</p>	<p>ありがとうございました。次の議題に進ませていただく。事務局からの説明をお願いします。</p>
<p>事務局（志摩課長）</p>	<p>【議事4】次期食育推進プランについて</p> <p>～資料9「調査結果等から見えてきた京都市民の特徴と課題」の説明</p> <p>～資料10「現プランと次期プランの枠組みと重点課題」（案）の説明</p> <p>～資料11「次期プランの施策の柱・重点課題・主な取組」（案）の説明</p> <p>さきほど御覧いただいた調査結果の課題から、着目する施策の方向性はこれでよいのか、他の方向性があるのではないかなど御意見をいただきたい。また、具体的には次回の検討になるが、施策の方向性に基づく主な取組についても御意見があればいただきたい。</p>
<p>座長（小川部会長） 京都市食品衛生協会 （池本副会長）</p>	<p>今の事務局の説明について御質問、御意見ををお願いします。</p> <p>社会情勢、家庭環境が変わってきている。家族で食事をするのができず、ばらばらになっている。そういった家庭環境の背景も食育の中では考慮すべきではないか。とてもいいプランだと思うが、プランを実現するためには、多くのハードルがあると思う。しかし、絵にかいた餅では意味がない。しっかりと考えてほしい。</p>
<p>京都府医師会 （藤村理事）</p>	<p>3歳児の食物アレルギーが9.3%という結果であったことに衝撃を受けている。現在、医師の間でも非常に問題になっているのが、子どものアレルギーの「除去食」という考え方が進みすぎているということがある。本来は、食物アレルギーは、乳児で10%、3歳になると半分くらいである。9.3%の「ある」と答えた方のうち、半分ほどの方は、実際はアレルギーはなくなっているはずであるが、「ある」と思い、卵や大豆、小麦等を除去する食事を続けているということがこのデータでよく分かった。子どもにとってアレルギー源となる食べ物を過度に除去すると、ビタミンや微量元素が欠けていくこ</p>

<p>京都府歯科医師会 (辻理事)</p>	<p>とが、成長の大きな問題となっている。我々医師としては、食物アレルギーはやがて減っていく、除去する食べ物は減っていくということをもっと市民に伝えなくてはならないと非常に反省した。</p> <p>歯科医師会では、「8020運動」を進めているが、80歳以上で残っている歯数が、だいたい一桁である。また、「カミング30」では、食べ物を30回噛みましょうという啓発もしているが、現在の食べ物は、柔らかいものが多いので、30回も噛む必要がない。子どもたちは、ラーメン、ハンバーグ、カレーライス等が好きである。小さい時に親が子どもにしっかりと噛むことを教えることを大切にしてほしい。昔から鶴は千年、亀は万年という例えがあるが、よく噛む方が長生きするという例でもあるため、よく噛むことを覚えてほしい。</p>
<p>京都市保育園連盟 (河田食育委員会 委員長)</p>	<p>前回の重点課題の一つに「保育所(園)・幼稚園・学校での子どもたちへの食育の推進」というものがあった。今回も、その内容は含まれているであろうが、文言が消えている。京都市の方針が変わったと捉えられるのではないかと。次期プラン案の4つの柱の中では、施策の柱2の「みんなで協働環境づくり」に入るのではないかとと思うが、京都市も様々な取組を推進されているし、それぞれの園や学校でも頑張っているのだから、保育園・幼稚園・学校での取り組みに関する文言を入れていただきたい。</p>
<p>京都府私立中学高等学校連合会(室 事務局長)</p>	<p>さきほどの御意見で、「親の課題」という視点と、20歳代になった時に朝食を抜くということから、「本人の食を作る意欲」ということが挙げられた。その二つの言葉の兼ね合いは大事であると思う。親の問題である一刀両断で切っていくのか、そしてもう一方では、本人の食に対する意欲をどうするか。また、やはり食は、一人では面白くないということは考えて取り組んでほしい。調査に関しては、15歳以上がひとくくりとなっているので、できれば高校生くらいの年代も入れていただくと私どもとしてはありがたい。</p>
<p>市民委員(駒井氏)</p>	<p>それぞれの部門から専門の方の御意見があるかと思うので、市民の立場として、全般的な感想を言わせていただく。3月の段階では、調査の設問について議論があり、その際「おばんざい」とは何なのか、私たちももっと知らないといけないと思った。実施にあたり、おばんざいの写真をつけていただく等改善されていた。次期プランについても、保育園連盟の方からは文言について御意見はあったが、現プランとの整合性という部分でも、とても整理がされていて分かりやすかった。8月24日の健康づくり推進会議の説明が非常に抽象的で分かりにくかったのに対し、今回の食育推進部会の内容は、具体的で分かりやすかったという感想を持った。</p>
<p>京都府栄養士会 (岸部会長)</p>	<p>自分が生き抜いていくためには、食べるのが基本となるということをもう少し教育の場でしっかりと植え付けられないか。適切な食生活を送ることで自分の能力がもっと広がりいい人生が待っているということ、子どもたちに個人の責任は自分で作っていくということをもう少し強調して教育していく必要があるのではないかと。現在の家庭では、各自生活形態が異なり、同時に朝食を摂ることは、現実問題無理である。自分が今日一日暮らすためには、これだけ食べないといけないという意識を持って食生活を送っていただけるよう、各年代で教育を進めてはどうか。人にしてもらうのではなく、身につける必要があると思う。</p>
<p>学校指導課</p>	<p>本日は、教育に関する御意見を多数いただきありがとうございます。日本料理に学ぶ</p>

<p>(有澤担当課長)</p>	<p>食育カリキュラム推進授業を毎年15～16校実施しており、今年度で約108校となり、その中で味覚・食材・料理教育を進めている。命ある食材をいただいて食べることや食の安全安心等について料理人の方に教えてもらっている。また、5、6年生の家庭科の時間や総合学習の時間を通して学ぶ機会を設けている。学校給食における「和食」の検討会議を通し、月1回和食推進の日を設けて「和（なごみ）献立」を実施している。和食を通して食の安全安心や自ら主体的に考えて行動し、生きる力を培うということに取り組んでいるので、次期プランでもそれらの取組を充実させていきたい。</p>
<p>中央卸売市場第二市場業務課（廣瀬課長）</p>	<p>第一市場では、野菜、魚を、我々第二市場では、食肉の卸売をさせていただいている。広く食品を扱い、京都市の皆様の方の入口であり、次のプランでも掲げられている地産地消や栄養の面、食の安全安心の部分で果たす役割は大きいのではないかと考えている。京都の野菜、お魚、お肉もあるので、それらのPRも進め、京都市民の健康づくりに力を果たしていきたいと考えており、皆様にも御指導いただきたい。</p>
<p>京都女子大学 (中山教授)</p>	<p>次期プランについては、おおまかには非常にいい方向に向かって進んでいるのではないかと。ライフステージに応じた食育の推進として、妊産婦から高齢者までの間断のない食育の推進が挙げられ、さきほど御意見のあった保育園での食育も入ってくるであろうし、2つ目の柱の協働での環境づくりでは、組織的なネットワーク作りということが入るであろう。本日の意見も踏まえて検討いただき、京都らしきプランにしていきたい。</p>
<p>座長(小川部会長)</p>	<p>朝食を食べない理由で「時間がない」とあるが、「時間がない」ということ自体が問題ではないか。また、食生活環境は変わっており、外食・中食が豊富であり、家庭で食事を作る気は起こらない。これらの点も検討いただきたい。</p> <p>それでは、これで本日の会議を終了する。会議の進行に協力いただき、ありがとうございました。</p>
<p>事務局(志摩課長)</p>	<p>資料を持ち帰ってお気づきの点があれば、事務局まで御意見をいただきたい。また、本日一部しかお示しできなかった意識調査の結果も、15歳以上の市民については、15歳から19歳等と年代を区分して集計しており、御指摘のあった高校生の年代の状況も反映できるため、完成次第お届けする。</p>